

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和2年9月8日（火）

2 確認箇所

- ・化学分析棟（入退域管理棟地下階）
- ・データ評価室（新事務本館2階）

3 確認項目

化学分析業務のシステム化の状況

4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所では、敷地内、港湾内及び周辺海域においてサンプリングした試料を対象に、毎日、放射能濃度や水質の分析を実施しているが、その分析項目は年間約8万件であり、東日本大震災前の約1.6倍に相当する数となっている。

そこで、東京電力は、分析業務の効率化と正確性の向上を図るため、令和元年11月にスマートグラス※（以下、「SG」という。）を活用した新たなシステムの運用を開始しており、9月から公表用資料の自動作成を含む分析業務システム化の運用を開始していることから、本日はその状況を確認した。

※ 主な機能として、「QRコード読み取り」、「映像送信」、「別室との会話による遠隔支援」、「分析手順の表示」、「分析値トレンド表示」等がある。これらの機能により、「分析値トレンド確認による異常値有無等の確認」、「データ評価室へ映像を送信することによる、リアルタイムでのダブルチェック」等が可能となり、分析業務の効率化や正確性の向上を図ることができる。SGの外観は（写真1）参照。

- ・分析員は、試料受領の際にQRコード（「試料容器」及び「分析員」）読み取り作業等を実施後、試料ラベル画像をデータ評価室に転送し、データ評価室の分析評価者と内容をダブルチェックしていた。（写真2）
- ・QRコードは、分析機器にも取り付けられており、「試料容器」、「分析員」及び「分析機器」の3つが一連の分析においてQRコードにより紐付けされていた。
- ・東京電力によると、本システムを導入したことでデータの手入力の作業が大幅に省略されたとのことであった。

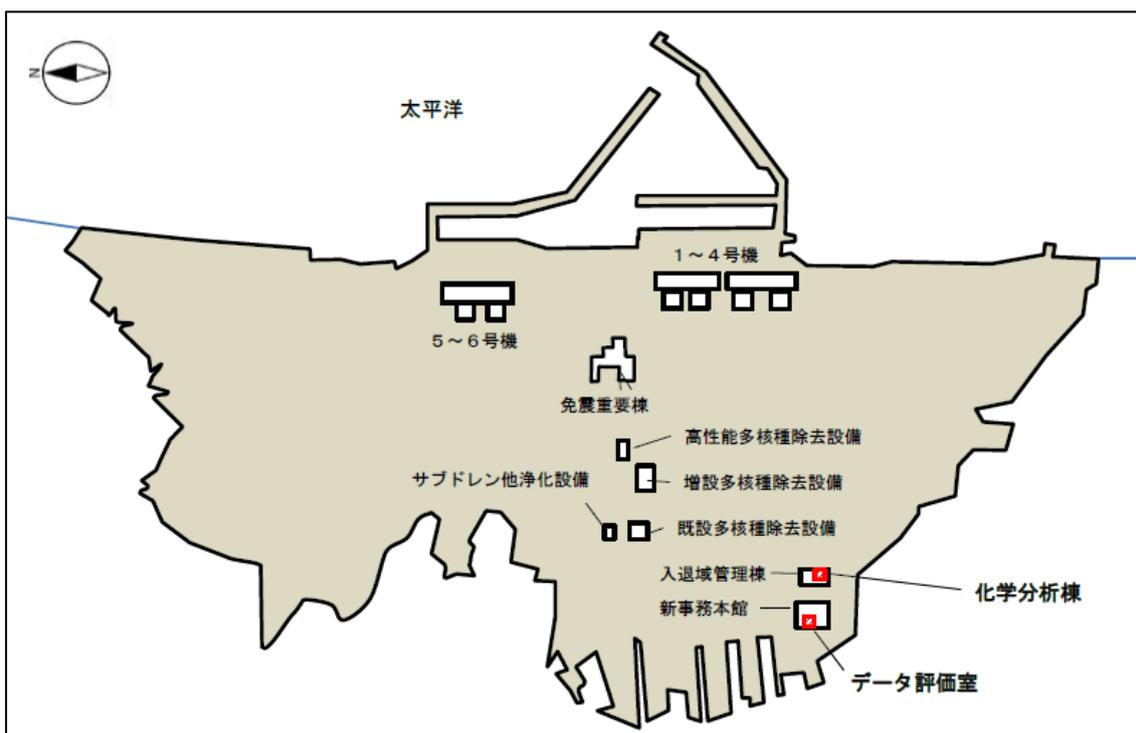
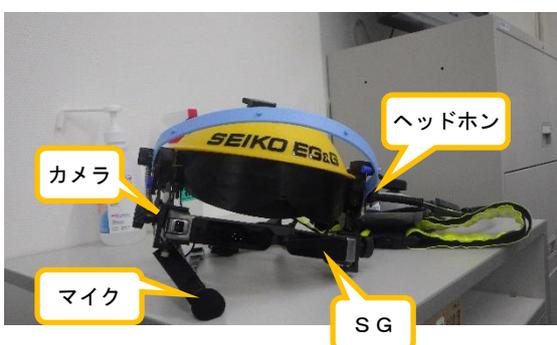


図1 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
SGの外観



(写真2-1)
SGを使用した試料受領作業の様子



(写真 2 - 2)

データ評価室の状況

分析評価者手元のモニタに、分析者から送られた画像が映るようになっている。

分析評価者は3人であり、他に試料受付担当者が1人いた。

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。